

# 遊び学び育つひろしまっ子！

## オンラインを活用した研修を進めています！

乳幼児教育支援センターでは、8月末からオンライン参加（ZOOM）と会場参加を併用した研修を始めています。

慣れない形態に試行錯誤しながら進めてきておりますが、先生方と共に学ぶことができるのは、研修を主催する側にとっても嬉しいことです。

今後の研修も、状況やニーズに応じて、内容・方法を検討し、実施していきたいと考えています。ぜひご参加ください。

### 〔研修の様子〕

〈左〉「令和2年度園・所内研修を充実させるための研修会（ステップ1入門編）」（福山商工会議所）

〈右〉「令和2年度『保育の質・評価』研修会」（県庁講堂）

コロナ禍で多くの研修が中止になる中、勉強できる機会があるのはとてもありがたい。

オンラインでの研修は、開始直前まで保育や業務をこなせるので、時間を有効に使うことができた。

オンラインでの研修は複数で受講でき、内容についてすぐに協議ができた。園内研修に活用することができそう。

### 参加された方の声から

画面の先生との距離を近く感じた。チャットでの質問は緊張なくできた。

会場で参加する方が、研修の雰囲気が出ていいと思う。



## 乳幼児教育支援センター アドバイザリーボード 及び「遊び 学び 育つひろしまっ子！」推進検討会議を開催しました！

乳幼児教育支援センターでは、各種施策の展開に当たり、各分野の有識者（大学教授等）で構成する「アドバイザリーボード」から最新の知見を得ることで、それぞれの施策が効果的に実施できるよう心掛けています。また、県内の幼稚園・保育所・認定こども園の各団体等と一緒に取り組んでいくために、「遊び 学び 育つひろしまっ子！」推進検討会議を開催し、お互いに意見を交わしながら取組を進めています。

令和2年9月4日（金）、これら2つの会議を合同で開催（一部委員はリモート参加）しました。

センターでは、この日いただいた御意見について、可能なものから施策化を進めていくなどして、今後のセンターの運営に生かしていきたいと考えています。

### ★いただいた主な御意見★

「オンラインやリモートといったことは当然大事なことだけれど、それだけではなく、リアルな体験の重要性を社会に訴えていくことが大事ではないか。」

「密にならない保育の中で、子供の心身の状況と育ちの見通しを踏まえたカリキュラムマネジメントのあり方が求められるのではないか。」

「センターは、もっとネットを使った様々な情報提供を進めた方がよいのではないか。」



## 令和元年度乳幼児期の教育・保育の充実に関する調査について

この調査は、県内の幼児の育ちの状況、園・所での教育・保育の状況、家庭での保護者の意識などの実態を把握し、園・所や保護者への支援など、平成29年2月に策定した「遊び 学び 育つひろしまっ子！」推進プランに掲げる施策の具体化に活用するために実施しました。

本年3月に調査の結果を各園・所、小学校等に配付しております。ぜひ、ご一読いただき、自園の取組の参考にしてください。

広島県教育委員会 幼児教育 調査結果

詳細はHPをご覧ください。

～調査結果より～

★乳幼児に対して重視して取り組んでいること  
(園長・所長回答, 上位3項目)【p.23】

「自分を発揮してのびのびと遊ぶこと」

「基本的な生活習慣を身につけること」

「人への思いやりをもつこと」



★主体性, 遊び込む時間や環境を考慮した指導計画を作成・実施している  
(園長・所長回答) → 87.1%【p.24】

★教育・保育について, 振り返り学び合うような機会がある  
(園長・所長回答) → 76.1%【p.33】

★小学校入学後間もなくの児童に多く見られる姿  
(校長回答, 上位3項目)【p.43】

「意欲的に物事に取り組もうとしている」

「友達と仲良くしようとしている」

「文字や数に関心を持っている」



## 絵本で得たそれぞれのイメージを表現・体験する・・・

「遊び 学び 育つひろしまっ子！」教育・保育実践事例集(平成30年3月広島県教育委員会)から、何度も読み語ってもらっている絵本の世界を表現・体験している1歳児の事例を紹介します。



子供たちは、楽しくリンゴ狩りをする絵本に興味を持ち、読み語りを聞いている。絵本のリンゴを指差したり、リンゴを取るまねをしたり、食べるまねをしたりして、一人一人が絵本の世界を楽しんでいる。

後日、絵本の読み語りを聞いた後、子供たちは気に入ったカゴを選び、腕を通したり肩にかけたり、持って引きずってみたりして、嬉しそうにしている。そして、「しゅっぱーっ！」と部屋を出て、園舎内を散歩する。

部屋に戻り、リンゴの木を見付けると、子供たちは「わあ！」と歓声を上げて一目散に駆け寄る。

A児(2歳4か月)は、リンゴを次々とってはカゴの中に入れていく。B児(2歳1か月)は、少し高いところに付けてあるリンゴをとろうとして、ジャンプをしたりする。ようやくとれたリンゴを持ち、保育者の方を見て、「とれたよ！」とニコッと笑う。C児(1歳8か月)は、ジャンプしても届きそうにない高さにある上の方のリンゴをしばらく見上げていたが、「だっこ〜！」と保育者に抱っこしてもらって自分でとって、得意げな顔で保育者を見て笑う。

思い思いの方法でリンゴをとることを楽しんだ頃、B児とC児は並んで座り、「おいしいね〜」と、食べるまねを始める。

「遊び 学び 育つひろしまっ子！」教育・保育実践事例集 p.25-26 ページ事例8 「やった〜！リンゴがとれたよ」より 



保育者の応答的な対応を伴った繰り返しの読み語りは、子供たちのイメージを深め、広げます。また、十分な数のカゴやリンゴを準備する等の保育者の配慮が、子供たちの遊びを深めます。子供たち一人一人の興味・関心に寄り添い、保育を進めていきたいですね。

【発行元及び連絡先】 広島県乳幼児教育支援センター

〒730-8514 広島市中区基町9-42 広島県教育委員会事務局(東館6階)

TEL 082(513)4978 FAX 082(212)3331

広島県乳幼児教育支援センターホームページ <https://www.pref.hiroshima.lg.jp/site/kyouiku/youji-index.html>

